

2025 年 9 月 11 日

小中学生対象特別講座「わたしと社会の再生ラボ」開催 ～捨てられそうなモノから未来をつくる、資源を守る心を次世代へ～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 執行役員社長：清水和志）は、エプソン販売株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：栗林治夫）、こまきこども未来館と協働し、8 月 25 日（月）に愛知県小牧市の小中学生を対象に夏休み特別講座「わたしと社会の再生ラボ」を開催いたしました。



講座の様子



講座終了後の集合写真

本講座は、小牧市中央児童館「こまきこども未来館」で実施している「体験ひろば」の一環として開催しました。当社は同館のパートナーシップ企業として、地域子どもたちに学びと体験の場を提供し、未来世代の健やかな成長に貢献しています。当社は、これまで培ってきたコアコンピタンス「高分子材料技術」「総合評価技術」を基盤に、持続可能な社会の実現に向けてモノづくりを通じた事業を展開しています。本講座もその一環として、次世代の子どもたちに「資源を大切に作る心」や「モノを再生し新たな価値を生み出す発想」を伝えることを目的としています。

本講座のプログラムは、昨年よりエプソン販売と当社が協働で実施しており、今年度は「こまきこども未来館」にも参画いただきました。当日は、公募で集まった 10 名の子どもたちが当社技術の体感やモノが生まれ変わる瞬間を見学し、モノの循環や技術の力について共に考えながら学ぶ時間となりました。

今回の講座は、子どもたちが自分の気持ちと素材の循環や技術を重ね、感情による気持ちの変化を理解し、他者と共有することで共感から共生の気づきを得るためのワークショップとして開催しました。講座では、当社が用意した弾む・弾まないゴムボールに触れ、落下後の反発の違いを体感し、同形状でも特性が異なるゴムの配合技術について学んでいただきました。また、業務で不要になった廃棄される紙をエプソンの製品である乾式オフィス製紙機「PaperLab（ペーパーラボ）」に投入し、古紙が再生紙として生まれ変わる様子を通じて、モノの「分解→結合→再生」を体感しました。これらの体験に加えて、当社で取り組んでいるモノの「分解→結合→再生」について紹介しました。事例として、食堂で排出された食品廃棄物を電力に再生後、社内利用していることや、使用済のゴムや製品廃棄物をゴム原料に再生する技術の開発を進めていることを紹介しました。講座を通じて、「わたし」と「社会」のつながりを理解いただき、地球の自然を守ることの重要性和「循環社会」を共に目指す意義をお伝えしました。

住友理工グループは、経営ビジョン「2029 年 住友理工グループ Vision」で「自然と都市と人の空間が繋がるグリーンで快適な社会」の実現を掲げており、今回の取り組みはその具体的な実践の一つです。今後も小牧市や地域のパートナーと協力し、環境教育やモノづくり教育の場を広げ、子どもたちが夢や希望を持って未来を描けるよう支援してまいります。

<小牧市 こまきこども未来館>

<https://www.city.komaki.aichi.jp/admin/soshiki/kodomomirai/tasedaipuraza/zigyouusuisin/kodomomiraikan/31327.html>

<会社概要>

エプソン販売株式会社

所在地 : 東京都新宿区新宿四丁目 1 番 6 号 JR 新宿ミライナタワー
代表者 : 代表取締役社長 栗林 治夫
事業内容 : 情報関連機器販売

住友理工株式会社

所在地 : 名古屋市中村区名駅一丁目 1 番 1 号 JP タワー名古屋
代表者 : 代表取締役 執行役員社長 清水 和志
事業内容 : 自動車用部品をはじめとしたゴム・エラストマー製品の開発・製造

以 上

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報IR部／〒450-6316 名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋
tel 052-571-0259 e-mail product.info@jp.sumitomoriko.com <https://www.sumitomoriko.co.jp/>